

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	MIRAIうるま			
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 10日		～	令和7年 5月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 10日		～	令和7年 5月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員に保育士もいるため知識、経験が豊富(職員は有資格者多い)	児発児童に対しては特に専門員(保育士)を中心に支援やサービス内容決定に取り組んでいます	勉強会や研修会の参加を積極的に行うようにする
2	イベント活動がある	夏には海に行ったり、バーベキューをしたり、冬にはハロウィンパーティなど季節のイベントを企画し、実施しています	家族ではなかなかできないイベントを子供たちと相談して取り組んで行きたい
3	事業所の近くに公園がある	公園活動を好む児童には公園活動を多くしている。また地域の子ども達とも関わりを持つことで地域に戻る気持ちを高めている	同じ公園ばかりではなく、いろんな公園に行って飽きないように、また、たくさんの地域の児童と関われるようにしていく

	事業所の強み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1			
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
MIRAIうるま		令和7年 5月 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2		適正になるように契約、利用計画を相談している	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2		各部屋に職員がいるように配置している	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2		手すりをつけている	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2		支援後には毎日の清掃と消毒を行っている	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。			必要に応じて事務所の使用も行っている	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。			全職員で参加している	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。			全員で共有している	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。			ミーティングや面談で意見を聞くようにしている	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				現在は行っていないので今後は見当が必要
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。			法人内では行っているが、外部研修は促し	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。			公表を行っている	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。			アセスメント、モニタリングを通して相談員にも共有して作成している	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。			事前会議を行っている	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。			閲覧しやすいように資料をまとめていて、会議の際には計画書をもとに行っている	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。			活動記録や支援記録を毎日記録して確認している	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。			出来る限り具体的な支援内容を設定し、見直し、修正も行っている	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。			職員全員で行っている	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。			児童の状態や人数を考慮して日々考えて行っている	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。			児童の状況に合わせた支援を行っている	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。			毎朝、朝礼を行い確認事項や連絡を行っている	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。			状況によっては翌日の朝に行うこともある	職員用の連絡ノートをもっと活用していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。			日々支援記録を記入し検討、改善について適宜会議を行っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。			決まった時期だけでなく、必要と意見があればその都度行っている	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。			児発管だけでなく、できるだけ職員も参加している	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。			整えている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			対面、電話、メールなどのツールも使い情報共有を密に行っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			相談員を通しての会議だけでなく、事業所からも積極的に行っている	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			同様な事業所への相談やアドバイスはうけている	今後は検討していく必要がある
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。			外出活動（公園）ではその場にいる子ども達も一緒に遊んでいる	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。			申し送りを丁寧に行っている	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。			相談があった場合には対応を行っている	家族に声掛けて事業所の見学や対応方法を見てもらうことも検討していく
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。			契約や変呼応があった際には丁寧に説明を行っている	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。			意見を取り入れて計画書の作成を行っている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。			会議の際には説明をしてサインを頂いている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。			適宜対応している	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。			現在は行っていない	父母の会の結成の呼びかけも検討する
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。			すぐに対応できる体制をとっている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。			インスタグラムでの発信や毎月の便りの発行を行っている	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。			気をつけている	

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		言葉だけでなく資格情報も使ってコミュニケーションをとっている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。		地域住民との挨拶は行っている	児童、保護者への確認も行って検討が必要
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		定期的に訓練は行っている	保護者への周知は不十分だと感じるので今後はお便りやSNSでも発信していく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		定期的に訓練は行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		保護者との連絡を密に行って確認し、アセスメントシートも活用している	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		保護者や児童から聞き取りやアセスメントシートの活用で対応している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		安全管理を行って支援を行っている	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		安全計画は行っている	保護者への周知は不十分だと感じるので今後はお便りやSNSでも発信していく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		毎朝のミーティングで行っている	定期的な勉強会も必要だと感じるので開催していく
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		日々の確認や定期的な虐待研修を行っている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		身体拘束事例なし	様々な状況を考えて今後は記載を考える